

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

道の駅つるたを核とした加工施設集約による生産性向上計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

青森県北津軽郡鶴田町

### 3 地域再生計画の区域

青森県北津軽郡鶴田町の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

青森県北津軽郡鶴田町は津軽平野のほぼ中央にあり、農業を基幹産業としてきた。基幹産業は米とりんごであるが、昭和45年頃からスチューベンぶどうに転作する農家が増え、現在の生産量は1,161トンにもおよび、スチューベン品種では作付面積・生産量ともに日本一となっている。

産業振興の施策としては、他の地域との差別化を図るため、この特産品のスチューベンぶどうに特化した取組を、農産物直売所や周辺観光施設の情報拠点である道の駅つるたを核として実施してきた。

現状、生産性が低い要因としては、特産スチューベンぶどう及びリンゴのジュース加工を自社製造し、さらに地元事業者及び農家から受託加工している農産加工センター機械設備の老朽化、また、この施設が道の駅つるたから離れていること、道の駅つるたが冷蔵庫を所有していないため借用していることが挙げられる。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

当該地域の最大の資源である道の駅つるたを活用して、同一敷地内にジュース加工製造部門の施設を新築移転し、加工施設を集約することで生産性を向上させ、多様な主体と連携しながらスチューベンぶどう加工品の付加価値向上及び販路開拓事業、観光プロモーション事業等を一体的なプロジェクトとして実施することで、農業及び観光産業の魅力を情報発信し、地域に魅力ある雇用を創出し、町の人口減少抑制につなげるものである。

### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	H33 年度 増加分 4 年目	H34 年度 増加分 5 年目	KPI 増加 分の累計
農産加工センターの ジュース製造量（リ ットル）	73,381	0	7,000	10,000	10,000	10,000	37,000
シードオイルの開発 数（個）	0	0	1	1	1	2	5
農産加工センターの 来客数（人）	0	0	10,000	10,000	10,000	10,000	40,000

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

本事業は農産加工センターを新築移転し、既存の2倍の容量を有する冷蔵庫及び資材庫、新商品開発ができる設備の導入、外部に委託加工していたスチューベンソース製造機械の導入、これまで廃棄されていたスチューベンぶどうの種を活用したシードオイル研究開発設備を整備し、生産性を向上させ、農産物販路拡大事業を実施する。また、見学可能な施設としての機能強化により道の駅全体の来客増を図り、首都圏においては知名度向上のための観光プロモーション事業を実施する。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

① 事業主体

鶴田町

② 事業の名称：道の駅つるたを核とした加工施設集約による生産性向上事業

③ 事業の内容

本事業は農産加工センターを新築移転し、既存の2倍の容量を有する冷蔵庫及び資材庫、紙パック入りジュースなど新商品開発ができる設備の導入、外部に委託加工していたスチューベンソース製造機械の導入、これまで廃棄されていたスチューベンぶどうの種を活用したシードオイル研究開発及び見学可能な施設とする機能を持った施設を整備する。なお、農産加工センターは、道の駅つるたに隣接する土地を町が単費により取得し、敷地の拡張を行い整備する。

そのような整備の結果、道の駅つるた敷地内にジュース製造施設も集約することで生産性が向上し、また、スチューベンソースは自社製造できるようになり、自社で製造販売している特産加工品の生産過程が効率化できる。さらに、スチューベンソースを地元の菓子製造業にも提供できることや、シードオイル研究開発に基づく新たな商品開発に新たな雇用が創出されることを通じて地域の生産性向上が実現される。

#### ④ 事業が先導的であると認められる理由

##### 【官民協働】

町は道の駅つるたの敷地を拡張して農産加工センターを整備することで施設全体の生産性が向上し、販路を拡大することで農業者の所得向上を図る。また農産加工センターを見学可能な施設として機能強化をすることで来客数が増え、道の駅つるたの施設全体の来客数増を図り、これに伴う専任職員の配置といった雇用機会の向上も図る。農業者で構成される JA 農産物直売コーナー友の会は地元農産物の供給、農協は運営の協力、(株)鶴の里振興公社は施設を運営しながら地元農産物及び加工品の製造・販売と全国の交流のある道の駅とのイベントを実施する。

##### 【政策間連携】

農産加工センターを道の駅つるたの敷地内に新築移転することで、道の駅つるたの施設全体の生産性が向上し、販路を拡大することで農業者の所得向上を図る。また、農産加工センターを見学可能な施設として機能強化をすることで道の駅つるたの施設全体の来客数増を図り、観光協会は町と連携しながら道の駅つるた内の観光案内所を運営し、道の駅を核とした観光資源の情報発信の充実、観光地としての知名度向上に取り組んでいく。

##### 【地域間連携】

道の駅つるたは、本町特産のスチューベンぶどうと、友好都市の鹿児島県さつま町の焼酎とのお互いの地場産品を融合し、新たな連携産品の開発販売により、地域間連携産品のブランド化につなげる。また、これまでも交流のある全国 16 箇所の道の駅では、特産のりんごやスチューベン、青森県産品の販売をしていただき、代わりに道の駅つるたでは、他県の道の駅交流商品として千葉県南房総市の天然ひじきや沖縄県名護市のさんぴん茶など県外の特徴ある産品を販売することでお互いの販売力の強化及び知名度向上を図る。

### 【自立性】

道の駅つるたの指定管理者である（株）鶴の里振興公社は、現在でも町からの繰り入れは無く、自立し利益を上げている。本事業により農産加工センターを新築移転することで、（株）鶴の里振興公社は施設全体の生産面が強化されたことでさらに利益を上げ、また、施設を利用する農業者で構成されるJA農産物直売コーナー友の会の所得向上を目指す。さらに、農産加工センターの利活用により雇用拡大を図る。

農産加工センターの販売額は、道の駅つるたにおけるジュース販売額、地元事業者及び農家からの受託加工に係る手数料収入の合計で、H28 実績で17,689千円となっている。

### ⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

#### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	H33 年度 増加分 4 年目	H34 年度 増加分 5 年目	KPI 増加 分の累計
農産加工センターの ジュース製造量（リ ットル）	73,381	0	7,000	10,000	10,000	10,000	37,000
シードオイルの開発 数（個）	0	0	1	1	1	2	5
農産加工センターの 来客数（人）	0	0	10,000	10,000	10,000	10,000	40,000

### ⑥ 評価の方法、時期及び体制

#### 【検証方法】

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を町企画観光課が取りまとめる。

#### 【外部組織の参画者】

鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を構成する有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。

#### 【検証結果の公表の方法】

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を町企画観光課が取りまとめて、鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を構成する有識者や議会の関与

を得ながら検証結果報告をまとめる。また、必要に応じて鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略や今後の事業経営方針に反映させる。検証結果は速やかに町ホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 398,543 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成35年3月31日（5ヵ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### (1) 農産物販路開拓事業

事業概要：町特産品のスチューベンぶどうの販路が少ない東海以西の販路開拓のために、行政・生産者・JA・市場関係者と一緒にトップセールスを行うもの。

実施主体：青森県北津軽郡鶴田町

事業期間：平成29年度～平成34年度

##### (2) 観光プロモーション事業

事業概要：首都圏における町の認知度や訪問希望者向上のために、観光PRイベントや特産品の販売を行うもの。

実施主体：青森県北津軽郡鶴田町

事業期間：平成29年度～平成34年度

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成35年3月31日まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

#### 【検証方法】

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を町企画観光課が取りまとめる。

#### 【外部組織の参画者】

鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を構成する有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

#### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30年度 増加分 1年目	H31年度 増加分 2年目	H32年度 増加分 3年目	H33年度 増加分 4年目	H34年度 増加分 5年目	KPI増加分の累計
農産加工センターの ジュース製造量（リ ットル）	73,381	0	7,000	10,000	10,000	10,000	37,000
シードオイルの開発 数（個）	0	0	1	1	1	2	5
農産加工センターの 来客数（人）	0	0	10,000	10,000	10,000	10,000	40,000

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を町企画観光課が取りまとめて、鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を構成する有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。また、必要に応じて鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略や今後の事業経営方針に反映させる。検証結果は速やかに町ホームページで公表する。